

オウム対策住民協議会

平成22年度 烏山地域オウム真理教対策住民協議会 総会開催

平成22年度烏山地域オウム真理教対策住民協議会が、6月18日烏山総合支所2階会議室にて開催された。

来賓として世田谷区から、森下副区長、内田危機管理室長、河合烏山総合支所長が出席。住民協議会は、海老澤会長、倉本名誉会長はじめ、会員多数が出席した。総会は海老澤会長の開会挨拶で始まり、21年度事業・決算・監査の各報告がおこなわれた。

事業報告では、監視活動、抗議デモ・学習会など、地域住民が多数参加できる活動形態の重要性が語られ、協議会ニュースの定期発行、会の活動を支える募金活動、リサイクルバザーと、多彩な活動が会運営にとって欠かせないと報告された。

事業・決算・監査の報告が全員の拍手で承認され、平成22年度事業計画・予算案の提案へと議事が進められた。



広報部からは、住民協議会ニュースが11月で発行以来100号になると報告されると、

会場から驚きの声があがった。取材活動が各地とのつながり、運動の広がりを生んでいると語られ、今後も「読んでもらえるニュース」を目標に発行することが報告された。

署名・募金部からは、平成24年1月で「観察処分」が期限になることが話され、今年度から準備に入ることが確認

烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会

足立区入谷「オウム真理教(アレフ)の進出絶対阻止住民決起集会」取材

新聞・テレビ等で報じられている、足立区入谷9丁目に出来た、オウム真理教(アレフ)施設は、地上4階建て1・2階は道場など、3・4階は宿泊施設になっている。持ち主は宝樹社と明記され、オウム真理教施設では、全国最大規模になる恐れありとの情報を受け取った、足立区入谷の地域住民は、6月12日(土)危険な団体である、オウム真理教(アレフ)の進出に断固反対する決起集会を行った。

今は廃校になった、入谷南小学校体育館で行なわれた決起集会には、夜7時という時間にも拘わらず、続々と集まる地域住民



は600人以上、体育館の椅子に座りきれずに立っている人達が外まで溢れていた。「私たちの町にオウムはいらない」「オウム真理教はアレフと改称しても、殺人集団に変わりはない」と各町会代表から反対が叫ばれて、次の一步を確認し合って終了した。住民の何人かに声をかけたところ「全然知らないうちに、あのような施設が出来て混乱しているのが現状です。とにかく反対運動をしなればと思います」とにかく住民が自分たちの安全な生活を守らなければいけないと思います」とのコメントが返ってきた。

会場の皆さんには、10年間続いている、烏山地域オウム真理教対策住民協議会の活動を伝えて、これからも手を取り合って、反対運動を続けて行こうとエールを送った。

「オウム真理教対策関係市町村連絡会総会」開催

6月9日(水)グランドアーク半蔵門(千代田区)において、平成22年度オウム真理教対策関係市町村連絡会総会が、25区市町村の出席により開催されました。

この会議において、平成21年度の活動結果として、千葉法務大臣及び北田公安調査庁長官と面会し、「団体規制法の存続」「法改正による規制強化」を求める要請書を直接提出したところ等が報告され、平成22年度の活動方針として、「住民に不安を与える反社会的危険集団の活動を認めない」「オウム真理教に利益や施設を与えない」等の基本原則を再確認するとともに、オウム真理教の壊滅に向けた対策を引き続き強力に推進していくことが決定されました。

また、役員改選が行われ、会長に足立区(東京都)、副会長に木曾町(長野県)、監事には藤岡市(群馬県)と湖南市(滋賀県)が決定し、新

会長である足立区から、関係区市町村が連携し活発に活動していることが挨拶がありました。

さらに、公安調査庁からオウム真理教の現状等について、「国内には、15の都道府県下31ヶ所に約1,500人の信徒がおり、教団の危険性は現在も変わっていない。」「組織勢力の維持・拡大のため、教団名を秘匿した信徒勧誘活動を活発に展開している。」「足立区入谷に大規模な土地・建物を取得した。」等の報告があり、今後関係機関や住民の皆様方と連携を図っていききたいとの協力要請がありました。

最後に、ジャーナリストの江川紹子氏による、オウム真理教を取り巻く情勢をはじめ、「風化とともに活発化する信徒勧誘活動」「信者が教団へ戻ってしまう理由」「オウム真理教の危険性」等についての特別講演がありました。

千葉県南鎌ヶ谷オウム真理教施設取材記

関東周辺のオウム真理教施設への取材も、7年が経過し9ヶ所目になり、残る施設も少なくなってきた。今回の取材は、上祐派「ひかりの輪」が所有する施設だという。5月13日、永福から乗った首都高速は三郷南出口へは40分で到着したが、目的地の南鎌ヶ谷へは約15kmだが1時間を要した。この地域は梨の産地で、道路の両側に梨畑と、立派な構えの屋敷が目立つ。目的のオウム真理教施設は、建売風の家が並ぶ、新興住宅地にあった。行き止まりの道路が三本あり、その一本の右奥が、目的のオウム真理教施設だ。最初に伺ったお宅で女性の方に話が聞けた。オウム真理教が入居していることは承知していて「二年ほど前に入居してきましたよ」「反対運動はしていません。」と、さも当然といった顔つきだ。自治会会長さんに聞いてくださいと、会長さんの住所を教えてください。留守宅が多く、次に話が聞けたのは、オウム真理教施設に近い家で、以前マスコミの取材で騒ぎが大きくなった経緯から、最初は私たちに好意的でなく、会社の名刺を差し出すと「なぜオウム真理教対策住民協議会の名刺がないのですか」と怪しまれた。少しずつ会話がしなくなり「私だってもう少し離れたところに住んでいれば、反対活動をしていますよ」「あまりにも施設に近いので、恐怖心もあり声が出せませんよ」と、本心を

話してくれた。「セミナーも度々しているよ、その時は車の出入りも多く、上祐もよく来ているようですよ。」最後にやっと会話がしなくなった。

次に自治会会長さんのお宅をたずねる。会長さんは畑仕事中でも拘わらず、快よく対応してくれた。烏山地域に知り合いがいて、監視活動については承知していた。「オウム真理教施設がこの地域にある事も知らないし、市役所からも連絡は来ていません。」逆にどこにあるのですかと聞かれる。「自治会協議会で話してみる、了承されれば住民協議会ニュースを回覧したいので送ってほしい。」との提案。以前取材した地域でも同様のことがあったが、この地域でも、オウム真理教の入居を、行政から報告されていないようだ。行政がオウム真理教施設と承知しながら、最近住民に告知しないケースが増えてきている。複雑な思いを胸に帰路についた。



オウム真理教(ひかりの輪)南鎌ヶ谷施設

コラム「声」正義感あふれる、Sさん

Sさんとは、子供たちが同級生で、付き合いは古い。しばらく他愛もない話の後、取材に入る。「オウム真理教の烏山地域への集団入居時、町会の一員として施設へ入った時は恐怖を感じた。」マスコミの取材陣、右翼の発砲事件など、地域が騒然としていた当時を振り返る。「協議会活動で観察処分、団体規制法などを学び、今では昔のような恐怖心はなくなった。」長い期間の活動経験で、現在は恐怖が怒りへ変化したと語る。「サリン事件は多くの死傷者を出した。再び事件が起きないように、オウム真理教問題を風化させたくない。」と話す。「子どもが成長し、カルトへ引き込まれないように。特に子育て中のお母さ

んへ伝えたい。」自身は、「観察処分」期間更新などの署名や、活動資金を集める、署名・募金部で活動。多忙の中、各地のイベント会場へも出向く。オウム真理教に対する考えで、地元でも温度差を感じると話す。私たちの活動も更に多くの人にひろげなければと前向き。もっとアピールが必要と「マスコミは、オウム真理教問題の取り上げが少なくなった。」「バザーなど大きなイベントはマスコミへ取材を依頼し、皆さんに知ってもらわない」と語る。まったく同感。フルタイムの仕事を持ちながらの活動に頭が下がる思いがした。

第1回「^{しもちょう}からすやま下町まつり」で募金活動

5月22日(土)第1回目の「下町まつり」に住民協議会から、募金活動で参加しました。世田谷文学館横の歩道を封鎖して会場としたので、桜並木の下で涼しいイベント会場となりました。当日文学館は無料開放され、館内では世田谷の歴史についての講演も行われました。受付横の目立つ所に募金箱を置かせていただき開始と同時に「普段は協力出来ないから」と5000円を

入れてくださったのには感激でした。その後「がんばってね!」「10年も続いているんだ、すごいですね!」「皆さんの活動の様子を教えてください!」「大変でしょうけどがんばってください。署名はないの!」などなど好意的な意見を沢山いただきました。快く募金活動の場を提供してくださいました「下町まつり」関係者の皆様と、当日募金をしてくださいました皆さまに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

住民協議会活動報告

6月12日(土) 足立区入谷決起集会へ広報部取材
6月18日(金) オウム真理教対策住民協議会総会
6月24日(木) 足立区入谷より住民協議会設立の相談に来所
6月28日(月) 協議会ニュース97号初校正

7月5日(月) 協議会ニュース97号再校正
7月6日(火) 事務局会議
7月13日(火) 住民協議会ニュース発行
7月13日(火) 実行委員会

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。